

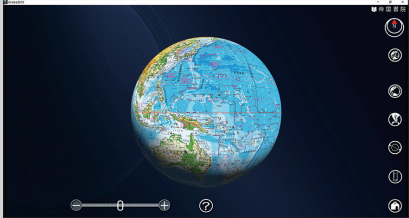
デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.14-15 世界の中での日本の位置
2. 目標 (1) 世界における日本の位置を、緯度・経度や他地域から見た位置関係から理解できる。
(2) 地図帳やデジタル地球儀などを活用し、日本の位置をさまざまな方法で説明できる。
3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・世界における日本の位置を、緯度・経度や他地域から見た位置関係から理解している。
思考・判断・表現	・地図帳やデジタル地球儀などを活用し、日本の位置をさまざまな視点から表す方法を考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・世界の中での日本の位置や広がりに関心を持ち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究、解決しようとしている。

4. 指導過程

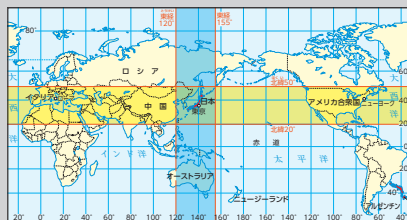
※ iPad ではi地球儀をご使用いただけません。

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
章の見通し	0. i地球儀を題材にし、日本の周辺地域や日本と同じくらいの緯度の国を確認し、「章の問い」への見通しを持つ。	 i地球儀※ i地球儀で日本列島の周辺を拡大したり、日本と同緯度の国を巡ったりしてみよう。 「章の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表してみよう。 解決のために、何が分かればよいか、どのようなことを調べればよいかなど、見通しを立てよう。	○ i地球儀を題材にし、日本の周辺地域や日本と同じくらいの緯度の国を確認させながら、章の見通しを持たせる。 ○ i地球儀を使用できない場合は、グループごとに地球儀を準備する。 ○ 「学習の見通し・振り返りシート」へ記入させ、章の学習の見通しを持たせる。
導入	1. 日本と同じくらいの緯度に位置する国の写真を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. ローマとニューヨークとほぼ同じ緯度にある日本の都市を予想し、学習課題への見通しを持つ。	 p.14 1  p.14 2 ローマとニューヨークの緯度を地図帳で確認してみよう。 ローマとニューヨークとほぼ同じ緯度の日本の都市はどこか予想してみよう。	○ ローマとニューヨークの位置を地図帳で確認させながら、本時への導入を図る。 ○ ローマとニューヨークとほぼ同じ緯度の日本の都市を予想させる。 ◆ 青森市や函館市の緯度に近いことに気付かせる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
学習課題：私たちが暮らす日本の位置は、緯度・経度で見た場合や、世界の他地域から見た場合、どのように表されるのだろうか。			

展開

3. 日本の位置を緯度と経度で表現する。

(1) 緯度で表す日本の範囲



p.14 3

日本のおよその範囲を緯度や経度で示してみよう。



地図帳 p.1-3 ①

日本と同じ緯度や経度にある国を三つ以上書き出そう。



p.15 7

ロシアや北朝鮮、韓国、中国から見た日本の位置を緯度・経度を使わないで説明してみよう。



p.15 5



p.15 6

極東や中東とは、どこの地域を指しているのか、説明してみよう。

5. 本時のまとめをする。

行ってみたい国を一つ選び、その国から見た日本の位置を、方位や大陸・海洋の名称などを使って説明しよう。

6. 学習課題への振り返りの活動を行う。

「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。

○ 資料から、緯度と経度を手がかりに日本の範囲を読み取らせる。
◆ 日本の南北の範囲は、およそ北緯 20 度から北緯 50 度であり、日本の東西の範囲は、およそ東経 120 度から東経 155 度であることを理解させる。

○ 資料から、日本と同じ緯度・経度の範囲にある国々を読み取らせる。
◆ 中国、イタリア、アメリカ合衆国などの国々が日本とほぼ同じ緯度であり、オーストラリア、パプアニューギニア、パラオなどの国々が、日本とほぼ同じ経度にあることに気付かせる。

◆ ロシアや北朝鮮、韓国、中国から見た日本の位置を、緯度・経度を用いずに表現させ、相対的な位置の表現方法を説明させる。

○ 緯度や経度を用いなくて、日本の位置を表す方法を考えさせる。

◆ 「北半球」、「極東」、「ブラジル沖の反対側」など、多様な視点から日本の位置を表すことができることを理解させる。

◆ 行ってみたい国を一つ選び、その国から見た日本の位置を、海洋や大陸の位置関係から適切に説明できたか確認する。

○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。

整理